

# 「父親との分離場面における子どもの様子の観察」研究への

## ご協力をお願い

この文書は、「父親との分離場面における子どもの様子の観察」の内容について説明したものです。この研究に参加されなくても不利益を受けることは一切ありませんのでご安心ください。もし、おわかりになりにくいことがありましたら、どうぞ遠慮なく担当者にお尋ねください。

### 1. この研究の概要

#### 研究課題

父親との分離場面における子どもの様子の観察

#### 研究責任者氏名・所属・職名

・大久保 圭介 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 特任助教

#### 研究従事者氏名・所属・職名

・大久保 圭介 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 特任助教  
・西垣 英恵 東京大学大学院教育学研究科 博士課程  
・江見 桐子 東京大学大学院教育学研究科 博士課程  
・平田 悠里 東京大学大学院教育学研究科 博士課程

#### 研究目的

父親と子どもの分離場面を観察することで、その父子関係の特徴を調べるのが目的です。日本で父子を対象にした研究はほとんどないため、この研究は、父子関係の特徴や母子関係との違いを明らかにするために役立ちます。

#### 研究方法

実験室における観察と、アンケート調査、インタビュー調査です。実験全体の所要時間はおよそ1時間で、最大でも1時間30分を予定しています。

実験室における観察では、他者（女性のストレンジャー）がいる状況で、父親との2度の分離・再開場面の様子を観察します。実験のプロトコルは以下の表の通りです。続いて、ストレンジャーがいない、父子だけの状態でおもちゃなどを使って遊んでいる場面も観察します。そのあと、アンケート調査とインタビュー調査を行います。

アンケート調査は、お子さんの状態についての項目、父親のメンタルヘルスや育児に関する項目について回答して頂きます。研究者以外の者が回答の内容を知ることはありません。また、分析する前に氏名などを削りどなたのものか分からないようにするため、調査票の原票から個人が特定されることはありません。

インタビュー調査は、主に育児に関することについて伺います。インタビューの際は、録音させていただきます。記録は、個人情報をつさず符号により管理します。

また、観察開始からインタビュー終了時まで、お子様の心拍を心電計によって測定します。実験室に入る前に、3個の電極を身体に貼ってもらいます。このことによる身体への影響はありません。なお、最初の実験開始からインタビュー終了時までを通して、3台のビデオカメラによって映像が記録されます。

表1 実験の流れ

エピソード	時間	詳細
1	1分	実験者が親子を部屋に誘導する。部屋には親子のみ。
2	3分	親子のみ 子ども：おもちゃで遊ぶ 親：子どもを見守る（必要以上のアシストはなし）
3	3分	親子とストレンジャー 最初の1分：ストレンジャーが入室する 次の1分：ストレンジャーは親と会話する 最後の1分：ストレンジャーは子どもと遊ぶ
4	3分*	ストレンジャーと子ども（1回目の分離） 親が部屋から出る
5	3分	親と子ども（1回目の再会） 親が部屋に戻り、ストレンジャーはすぐに部屋から出る
6	3分*	子どものみ（2回目の分離） 親が部屋から出て、子どもが一人で部屋に残る
7	3分*	ストレンジャーと子ども ストレンジャーが部屋に入り、子どもと一緒にいる 必要があれば相互作用をする
8	3分	親と子ども（2回目の再会） 親が部屋に戻り、ストレンジャーはすぐに部屋から出る

\*がついているエピソードは子どもの様子に応じて短縮します。分離が難しい場合は、部屋から出るふりをしたり、分離せずに次に進む可能性もあります。

## 2. 研究協力の任意性と撤回の自由

この研究にご協力いただくかどうかは、あなたの自由意思に委ねられています。研究参加前に、改めて実験の説明をさせて頂き、同意書へのサインを頂きます。一旦ご同意いただいた後で、もし同意を撤回される場合は、同意撤回書に署名し下記の連絡先までにご提出ください。なお、研究にご協力いただけないことで、あなたの不利益に繋がることは一切ありません。

同意を撤回された場合には、観察の映像データ、アンケートの回答票、インタビュー記録等の情報及び研究結果は破棄され、以後研究に用いられることはありません。ただし、以下の場

合には同意を撤回しても情報を破棄することができませんのでご理解ください。

- ・調査の回答が完全に匿名化されて個人が特定できない場合
- ・すでにデータ解析が行われ、あなたの情報を分離して破棄することができない場合

### 3. 個人情報の保護

---

研究にあたってはあなたに不利益が生じないように個人情報の保護、プライバシーの尊重に努力し最大限の注意を払います。あなたの情報から、氏名・住所・生年月日などの個人情報を取り除き、代わりに新しく符号をつけ、あなたのものであることを分からないようにした上で（匿名化）、研究に用います。あなたの個人情報を、責任を持って厳重に保管します。また、同意して頂いた場合のみ、匿名化した映像を（モザイク処理等はない元の映像）、ミネソタ大学の Elizabeth Carlson 教授に共有することがありますが、個人情報を提供することはありません。同様に、同意を得た場合のみ、国内外の学会にて映像の一部を見せる可能性があります。なお、その際は保護者の顔にモザイク処理を行います（子どもの表情は分析の対象となるため、非処理になります）。

### 4. 研究成果の発表

---

研究の成果は、氏名など個人が特定できないようにした上で、学会発表や学術雑誌及びデータベース上で公表します。基本的には、学術雑誌などで映像や音声そのものが公開されることはありません。前項に示したように、同意を得られた場合のみ、学会発表で映像を見せる可能性があります。

### 5. 研究参加者にもたらされる利益及び不利益

---

この研究は診断やカウンセリングを目的としているわけではないので、あなたに即座に有益な情報をもたらす可能性は、現在のところ低いと考えられます。この研究の成果は、今後の発達心理学研究の発展に寄与するための重要な基礎的成果となることが期待されています。日本人の親子関係についての国際的な理解の進展につながると考えています。

一方、予想される不利益としては、親子分離場面において、子どもが過剰なストレスを経験してしまう可能性があります。泣きが強度の場合は、分離場면을短縮したり、実験そのものを中断したりするという手立てを講じます。また、アンケートやインタビューの最中に不快に感じる項目があった場合には、回答を飛ばしたり、途中でやめたりしても構いません。

### 6. 資料・情報の取扱方針

---

実験の映像や回答して頂いたデータは匿名化した上、研究や分析等に用います。また、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センターにおいて、この研究成果の発表後少なくとも10年間保存いたします。

先述の通り、観察データはあなたの同意が得られた場合に限り、分析のために、国外の機関に提供したりする場合があります。提供する場合には、あなたの試料・情報であることがわからないようにして提供します。

## 7. あなたの費用負担

---

この研究に必要な費用を、あなたが負担することはありません。また、この研究に参加していただくことで、交通費を含めて、3000円分の図書カードを贈呈します。

## 8. その他

---

この研究は、東京大学倫理審査専門委員会において審査し、東京大学大学院教育学研究科長の承認を受けて実施するものです。なお、この研究に関する費用は、東京大学の寄付金（令和4年度発達科学研究教育奨励費、研究代表者：大久保圭介）から支出されています。ご意見、ご質問などがございましたら、お気軽に下記までお寄せください。

## 連絡先

---

研究責任者

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 特任助教  
大久保圭介

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

Tel: 03-5841-8311

Tel: 09011473406